

町民の健康づくりの核となる施設

総合ケアセンター「ゆくり」が開所

町民の病氣と介護予防などを目的に建設された、総合ケアセンター「ゆくり」の開所式が、四月十二日に同センターで関係者約八十人が出席し行われました。

開所式に先立ち住民を代表して、森本頼賢さん、阿蘇美紀子さん、在宅福祉事業者を代表して、森田定一さん、藤原町長、河村町議会議長の五人によるテープカットのセレモニーが行われました。開所式で藤原町長は、「この施設を多くの町民の皆さんに利用していただき、自分の健康は自分で守るという気持ちを持つてもらえることを願っている」とあいさつをしました。

開所式の後、関係者は施設内の見学し、施設の充実ぶりに目を見張っていました。



町民の代表など5人でテープカット

高齢者大学に 19人の新入生が入学

平成16年度高齢者大学入学式が4月30日総合福祉センターで行われました。

今年度の学生は新入生19人、2年生6人、研修生76人の計101人で、本町の行政や、交通安全、健康などについて学習し、スポーツなどで交流を深めていく予定です。さらに本年度は、『ゆくり』の施設説明会や、町内の自然と野鳥についても学習する予定です。式では新入生の紹介が行われ、続いて大学のしくみなどについて担当職員の説明があり、学生たちは熱心に聞き入っていました。



町長の話に耳を傾ける学生

発行された厚幌1遺跡調査報告書



厚幌1遺跡 調査報告書を発行

このほど、教育委員会で厚幌ダム建設にかかわる厚幌1遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書がまとめられ、道内外の主要な博物館や全道の市町村に送付されました。

14年度から15年度にわたり発掘調査されたことをまとめたもので、ページ数は400にも達します。

執筆者の1人、教育委員会嘱託職員の高橋調査員は、「厚真町における500年前のアイヌの人々の生活や4,000年前の縄文時代の人々の様子を知る上でこの調査は成果があったと思う」と感想を述べています。

閲覧希望の方は、青少年センターまたは厚南会館図書室でご覧ください。

きびきびとした 消火・救助活動に成果



本番さながらの模擬火災訓練

厚真消防団と消防署厚真支署による春季合同模擬火災訓練が、四月六日にスポーツセンターを会場に行われました。

給湯室から火災が発生し、大学生一人が逃げ遅れたという想定のもとに、約八十人の消防団・職員は本番さながらのキビキビとした動きで放水や救助を行いました。

尾谷消防長から「日ごろの訓練の成果が発揮されたと思う。地域に密着した、慕われる消防になることを願っている」と講評がありました。

また、閉会式にあたり、三月二十九日に私用で大滝村のホテルに行っていた際に、意識を失った三歳の子どもに心臓マッサージなどを施し、幼い命を救った、蛭子雅文消防指令補に消防庁から感謝状が授与されました。

13人の教職員が着任

転入教職員歓迎式が、4月15日、青少年センターで行われました。

今年度は、13人の先生が厚真町に着任しました。

歓迎会では一人ひとりからユニークな自己紹介があり、子どもたちの厚真に住んでいた先生や厚真出身の先生もいて、なごやかな雰囲気の中で歓迎式が行われました。



肌寒い中、交通安全を祈る

春の全国交通安全運動の一環として、セーフティコール212が、4月6日、町内の各団体や事業所から約60人が参加し、厚真市街地十字路で行われました。

この交通安全啓発運動は全道市町村でこの日に一斉に行われました。

肌寒い中をタスキがけでのぼりを持って、ドライバーや歩行者の交通安全を呼びかける姿が見られました。



韓国のテレビ局が 給食センターを取材

韓国放送公社（KBS）が四月二十一日から二日間、学校給食センターなどを取材しました。テレビ局のスタッフ三人は、「給食も教育」という番組制作のために来町しました。

厚真町は、文部科学省からアレルギー給食で先進的な町ということで紹介されたということです。スタッフは、「アレルギー給食や厨房のシステムなど期待していた以上のレベル」と熱心に取材していました。

矢部商工会青年部長が 札幌で事例発表

四月九日、札幌市で旧北海道開発局職員OBなどで組織し地域の活動を応援する「ライブ日胆の会」で、厚真町商工会青年部長の矢部励さんが「厚真町商工会青年部まちおこし奮闘記〜三年間の部長体験から〜」と題して事例発表を行いました。

矢部さんは、青年部で取り組んでいる、日本一の干支文字焼きなどの事例を映像を交えて説明し、集まった参加者からたくさん拍手がおくられていました。

